

ぎんれい会

平成二十九年七月

吊革の生徒の中になて暑し

主宰 細野恵久 福祉三期

老鴛や畑打つ鍬の手を休め

増田和子 食文一期

合歓の花大事な杖を忘れさせ

改正節夫 国際三期

荒梅雨に飛沫をあげて車行く

藤井秀重 生環四期

早桃の供母の享年五十歳

三枝邦光 美工五期

水無月や菓舗にたためる男傘

國永靖子 音文六期

楽しきは畑に在ること大豆蒔く

猿橋二三雄 福祉八期

地の裂け目縫う夏草の強き意志

加藤善巳 美工八期

篝終へ鴉を抱きをり夫婦者

太田 實 国際十期

花束の百合香漂ふアンコール

今崎良平 音文十四期

木雲雀や明日発つ地図を広げ見て

大下絹子 国際十五期

片陰の細るにつれて歩もゆるみ

中村建生 国際十五期

緑陰や思い出せない木の名前

藤本武子 国際十五期

駆け抜けしズームアップの競べ馬

山下 進 国際十五期

同期会の終活談義夏椿

許斐國照 食文十五期

乙女子の吊り革の手の白涼し

水島麗子 国際十六期

早苗田を繕ひに来し尻ひとつ

兼清久子 健福十七期

保護色にまたも変装青蛙

宮本公子 健福十七期

在りし母単衣に小鉤けざやかに

沖本无边子 国際十七期

あの頃の紙魚の家計簿昭和かな

香春早苗 国際十七期

特攻の飛翔の跡地カンナ燃ゆ

仲田慎輔 国際十七期

無人駅枇杷と桑の実谷の風

中村富美子 国際十七期

短夜のうわさ話や酒少し

宮本眞貴子 国際十七期

梅雨深し日鼻苔蒸す不動尊

江間れい子 園芸十七期

宵の湯に憂きこと解き髪洗ふ

小栗恭子 健福十八期

熟れ麦の近江は湖も空も蒼

潮江敏弘 健福十八期

音の無き闇に螢のシンフォニー

野見山剛 健福十八期

駐車場フロントガラスの毛虫跡

大山吉春 国際十八期

老棋士の終の一局苔の花

今井義和 美工二十期

連山をひと影に呑み夏の雲

尾崎育久 美工二十一期

念仏やぼとりぼとりと夏椿

黒木早苗 食文二十一期

元老の遺愛の硯五月闇

谷口裕 国際二十二期

逆縁の報に接せり半夏生

宮脇暁美 食文二十一期

一斉に扇子の動く幕間かな

武藤龍雄 国際二十一期

第二百三十九回ぎんれい句会（七月十四日開催より）